

# 村中II遺跡・西田V遺跡

都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

## 序 文

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

前橋は古代より豊かな文化あふれる地であり、東日本でもきわだった内容を示しています。今から2万8千年前の旧石器を始めとして、10基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するものなど多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代からの人々の生活の跡が市内のほぼ全域に残されています。古代の人々が暮らした家の跡、使った石器や土器などの道具、水田跡なども多く、毎年の埋蔵文化財発掘調査により多くの新しい発見があります。

本年度都市計画道路横手鶴光路線建設に関連して調査を行った鶴光路町周辺は、前橋市南部の水田地帯にありますが、近年の調査で周辺から縄文時代から中世に至る人々の生活の跡が多く発見されています。

本年度の村中II遺跡・西田V遺跡の調査では、平安時代の水田跡などの遺構を検出し、地区の歴史解明に貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました市北関東自動車道対策室、県文化財保護課、県埋蔵文化財調査事業団、地元関係者、酷暑のなか調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成13年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
団長 阿部 明雄

## 例 言

1. 本報告書は、都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う村中II遺跡（むらなかにいせき）・西田V遺跡（にしだごいせき）発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3. 発掘調査の要項は以下のとおりである。

調 査 場 所 前橋市鶴光路町103-4他

発 掘・管 理 担 当 者 小峰 駿・吉沢 貴（前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係）

発 掘 調 査 期 間 平成12年7月24日～平成12年10月13日

整 理・報 告 書 作 成 期 間 平成13年1月9日～平成13年3月23日

4. 本書の原稿執筆・編集は、小峰が行った。整理作業をはじめ図版作成には、阿部シゲ子・神澤とし江・桐谷秀子・櫻井妙子の協力があった。

5. 発掘調査にかかわった方々は次のとおりである。（順不同）

阿部シゲ子・神澤とし江・桐谷秀子・櫻井妙子・高橋 孜・奈良岩雄・原田要三  
古沢 実

6. 発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、  
前橋市教育委員会文化財保護課収蔵庫で管理されている。

## 凡 例

1. 採図中に使用した北は座標北である。

2. 採図に、建設省国土地理院発行の1/2.5万地形図（前橋・高崎・伊勢崎・大胡）、  
1/5万地形図（前橋・高崎）を使用した。

3. 本遺跡の遺跡コードは村中II遺跡が12G46、西田V遺跡が12G47である。

4. 各遺構の略称は、次のとおりである。

D…土坑 W…溝

5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。

遺構 土坑・溝…1/60 全体図…1/200、1/120

遺物 土器…1/4

6. スクリーントーンの使用は次のとおりである。

遺構断面図 構築面…

7. 表中の数値の中で、( ) は現存値を、[ ] は復元値を表す。

# 目次

序	i
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
3 層序	4
III 発掘調査の方針と経過	
1 調査方針	5
2 調査経過	5
IV 遺構と遺物	
1 村中II遺跡	9
2 西田V遺跡	10
V まとめ	10

## 図版

P L. 1 村中II遺跡全景写真

P L. 2 西田V遺跡全景写真

## 挿図

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| Fig. 1 村中II遺跡・西田V遺跡位置図 | Fig. 2 位置図と周辺遺跡図           |
| Fig. 3 標準土層図           | Fig. 4 村中II遺跡・西田V遺跡 調査区設定図 |
| Fig. 5 村中II遺跡全体図       | Fig. 6 西田V遺跡全体図            |
| Fig. 7 村中II遺跡遺物実測図     | Fig. 8 村中II遺跡遺構実測図         |
| Fig. 9 西田V遺跡遺構実測図      |                            |

## 表

Tab. 1 遺物観察表



1:50000

Fig.1 村中II遺跡(左) 西田V遺跡(右) 位置図

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴うものである。

平成12年4月10日、前橋市長より北関東自動車道対策室を通じ当該事業にかかる埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会宛てに提出された。これを受け、前橋市教育委員会の内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団が発掘調査を受諾することとし、以後は前橋市埋蔵文化財発掘調査団と調査依頼課との間で協議を開始するに至った。

平成12年6月12日、前橋市長と前橋市埋蔵文化財発掘調査団との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。そして、7月24日から現地での調査を開始した。その後、試掘調査により調査不要箇所が生じたことで、当初の発掘調査委託料を減額するための変更契約を締結している。

なお、遺跡名称「村中II遺跡」・「西田V遺跡」の「村中」・「西田」は旧地籍の小字名を採用した。また、名称中のローマ数字は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団や、当調査団で過去に調査した遺跡と区別するため付したものである。

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の立地

村中II遺跡・西田V遺跡は、前橋市南部の鶴光路町地内にあって、前橋市役所の南東約7kmに所在する。両遺跡は県道前橋玉村線を挟む形で位置する。道路の西側が村中II遺跡、東側が西田V遺跡である。本調査は、現在建設中の高速道路、北関東自動車道に並行して走る都市計画道路横手鶴光路線建設に伴うものである。周辺では高速道路などの道路建設工事を始め、下川淵公民館新築工事等、開発事業が相次ぐ。

両遺跡の東約800mには、端気川が流れている。北に1kmほど行くと県道27号高崎駒形線が走っている。交通量も多く最近ではファミリーレストランなどのロードサイド店舗に加え、大規模なスーパーが進出するなど市街化が進んでいる。また、近年の都市ドーナツ化現象により西には下川団地が、東には東善団地といった大規模な住宅団地も造成されている。さらに、北関東自動車道のインターチェンジが両遺跡地付近に建設されることから、より一層の市街化が進むものと思われる地域である。

### 2 歴史的環境

両遺跡地が立地する前橋南部地域では、先に述べたように北関東自動車道建設をはじめとする道路建設や住宅団地造成などの開発事業が多く、それに伴って発掘調査も多数実施されてきている。その結果、様々な遺構・遺物が検出され、前橋南部地域の歴史充実が進んでいる。

まず、前橋市は地形及び地質の観点から四つの地域に分けることができる。第1に市北東部の赤城火山斜面、第2に市南西部の洪積台地（前橋台地）、第3は前述の2地域に挟まれた沖積低地（広瀬川低地帯）、そして第4が現利根川氾濫原である。両遺跡の属する前橋台地は、今から約2万年前の浅間山山体崩壊に起因する泥流堆積物とその上に堆積する水成ローム層により構成される洪積台地である。台地上には利根川をはじめ、中小の河川が南北に流れる。端気川もその一つで、台地北部を源とする河川で台地中央を南流していた。この水源を利用し、古墳時代から徐々に水田開発が行われてきた。

本地域での発掘調査で検出された遺構は、古墳時代以降のものが多い。それ以前の繩文・弥生時代となると僅かな発見例を除き殆ど生活の痕跡が認められない。この地域が古墳時代になってから新たに開発の手が加えられた土地と考えられる。古墳時代の遺構としては、主に広瀬川低地帯や台地北端部に集中して住居址が検出されている。近隣の遺跡では、石田川式土器を多量に廃棄した溝などが見つかっている徳丸仲田II遺跡が挙げられる。また、集落址が集中する広瀬川低地帯には、前橋天神山古墳をはじめとする多くの古墳が確認できる。

時代は降り平安時代の遺構となると、末期の天仁元年（1108年）に噴出したとされる浅間A s-B軽石により埋没した水田跡がある。本遺跡の周辺でも数多く検出されているが、なかでも宮地中田遺跡では条里制に伴う坪境畦畔が確認されている。8世紀以降律令制が導入され国府の造営がなされた後、前橋台地上には条里制地割りが施行され、こうした台地の大規模開発によってこの地域は、豊饒の地域へと変貌を遂げたのである。



- |            |              |              |              |
|------------|--------------|--------------|--------------|
| 1 村中II遺跡   | 2 西田V遺跡      | 3 後開II遺跡     | 4 公田東遺跡      |
| 5 公田池尻遺跡   | 6 下佐鳥遺跡      | 7 宿阿内城内遺跡    | 8 川曲遺跡       |
| 9 東田遺跡     | 10 宮地仲田遺跡    | 11 浅間神社古墳    | 12 井戸南遺跡     |
| 13 横手宮田遺跡  | 14 横手湯田遺跡    | 15 横手湯田II遺跡  | 16 横手湯田III遺跡 |
| 17 鶴光路桺引遺跡 | 18 横手湯田VI遺跡  | 19 村中遺跡      | 20 西田III遺跡   |
| 21 西田II遺跡  | 22 鶴光路桺橋II遺跡 | 23 德丸高堀III遺跡 | 24 西田VI遺跡    |
| 25 西田遺跡    | 26 德丸高堀II遺跡  | 27 德丸高堀遺跡    | 28 德丸仲田III遺跡 |
| 29 德丸仲田遺跡  | 30 德丸仲田II遺跡  |              |              |

Fig.2 位置図と周辺遺跡図

### 3 層序

今回調査した村中Ⅱ遺跡は宅地として、西田Ⅴ遺跡はA区が宅地、B区は旧鶴光路町郵便局として利用されていた。両遺跡地の一部で、地表面から約30~40cmほどブロック片が埋められている箇所があったが、As-B軽石の純層が確認できた。特に西田Ⅴ遺跡では残存状況が良好だったので、西田Ⅴ遺跡A区の北東隅で標準土層を確認した。層序説明は以下のとおりである。

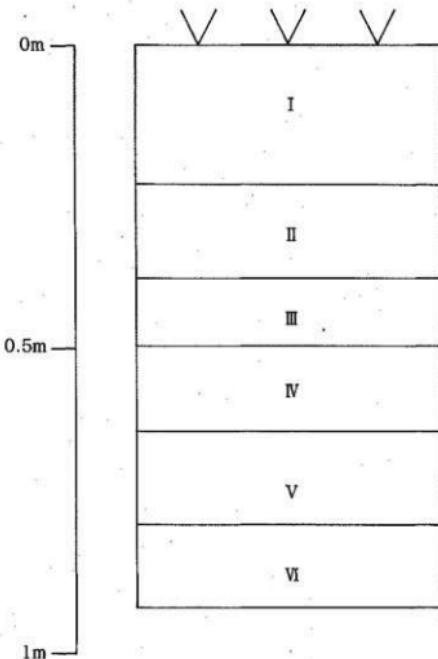


Fig.3 標準土層図

I層 客土

II層 褐灰色土層 繊まり有り、粘性やや有り。

III層 褐灰色土層 繊まり、粘性ともにやや有り。As-B軽石5~7%

IV層 褐灰色土層 繊まり有り、粘性なし。As-B軽石10~15%

V層 黒褐色土層 繊まり、粘性ともに有り。As-C軽石3%

VI層 黒褐色土層 繊まり、粘性ともに有り。

### III 発掘調査の方針と経過

#### 1 調査方針

調査委託された村中II遺跡、西田V遺跡は、県道前橋玉村線を挟んで東西に位置する。村中II遺跡は西側で、面積にして約435m<sup>2</sup>、西田V遺跡は東側で面積が約630m<sup>2</sup>、計1,065m<sup>2</sup>である。

村中II遺跡では、県道前橋玉村線との交差点となる部分をA区とし、細い路地を挟んだ西側の部分をB区とした。西田V遺跡については、旧鶴光路郵便局跡地をB区、道路を挟んだ東部分をA区とした。グリッドについては、5mピッチで、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

1) 村中II遺跡及び西田V遺跡では、西から東へX0、X1、X2…、北から南へY0、

Y1、Y2…、と付番し、測量の基準点X98・Y10の公共座標は、

第IX系 +36950.000m (X) -65860.000m (Y)

緯度 36° 19' 50". 9285 経度 139° 05' 58". 7517

子午線収差角 26° 04". 9 増大率 0.999953 である。

2) 各遺跡とも調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭打ち等測量・遺構掘り下げ・遺構精査・遺構測量及び写真撮影の順序で行うこととした。

図面作成については、平板簡易造り方測量を用い、遺構は1/20、調査区全体図は1/40の縮尺で作成した。

#### 2 調査経過

村中II遺跡については平成12年7月24日より重機(バックフォー0.4m<sup>3</sup>)を投入し、A区から調査を開始した。調査区周辺は過年度調査済み箇所の道路工事が進み、調査区外に残土置き場を確保できなかったため、A・B区同時に進めることはできなかった。表土掘削開始後、溝3条を検出した。調査区内では、染み出る水でゆるんだ状態で水中ポンプによる水抜きを実施しながらの調査となった。遺構掘り下げ・精査と並行してグリッド杭打ち等を行い、平板による遺構測量・図面作成を行った後、遺構写真を撮影し、平成12年8月3日調査終了とした。平成12年9月6日からB区では残土を調査済みのA区に置いて調査を開始した。A区と同様に地表面から約30~35cm程掘り下げたところで、土坑2基、溝1条を検出した。その後、遺構掘り下げ・精査・平板測量・写真撮影と順調に進み調査を終え、9月21日に調査区の埋め戻しを行った。

続いて西田V遺跡については、残土置き場を別に設けA区、B区一緒に表土掘削を開始した。両区共にAs-B軽石の純層が約3cm程確認できた。鋸簾を掛けAs-B軽石を取り除き、プラン確認の結果、溝1条、土坑1基を検出した。続いてグリッド杭打ち測量を実施し、遺構精査・平板測量・写真撮影を行い平成12年10月13日をもって全ての調査を終了した。

なお、整理作業及び報告書作成にあたっては、平成13年1月9日から前橋市三保町に所在する前橋市教育委員会文化財保護課整理作業室にて実施した。

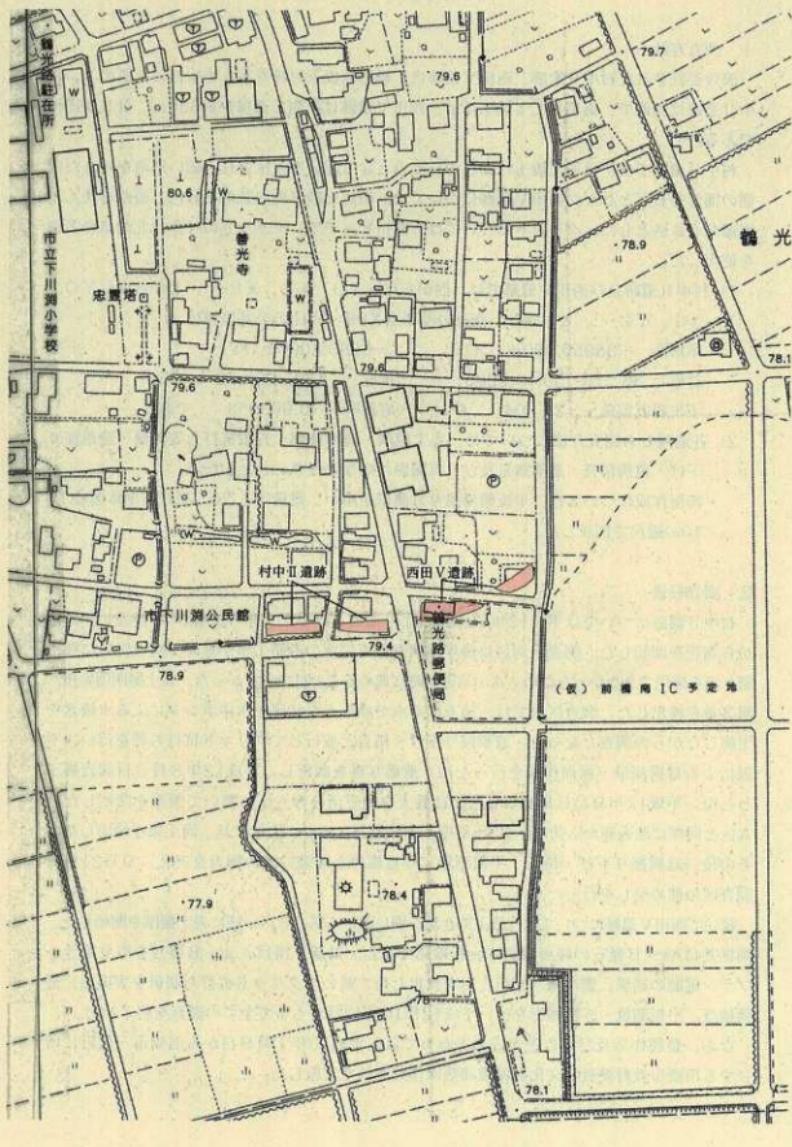


Fig.4 村中II遺跡・西田V遺跡調査区設定図

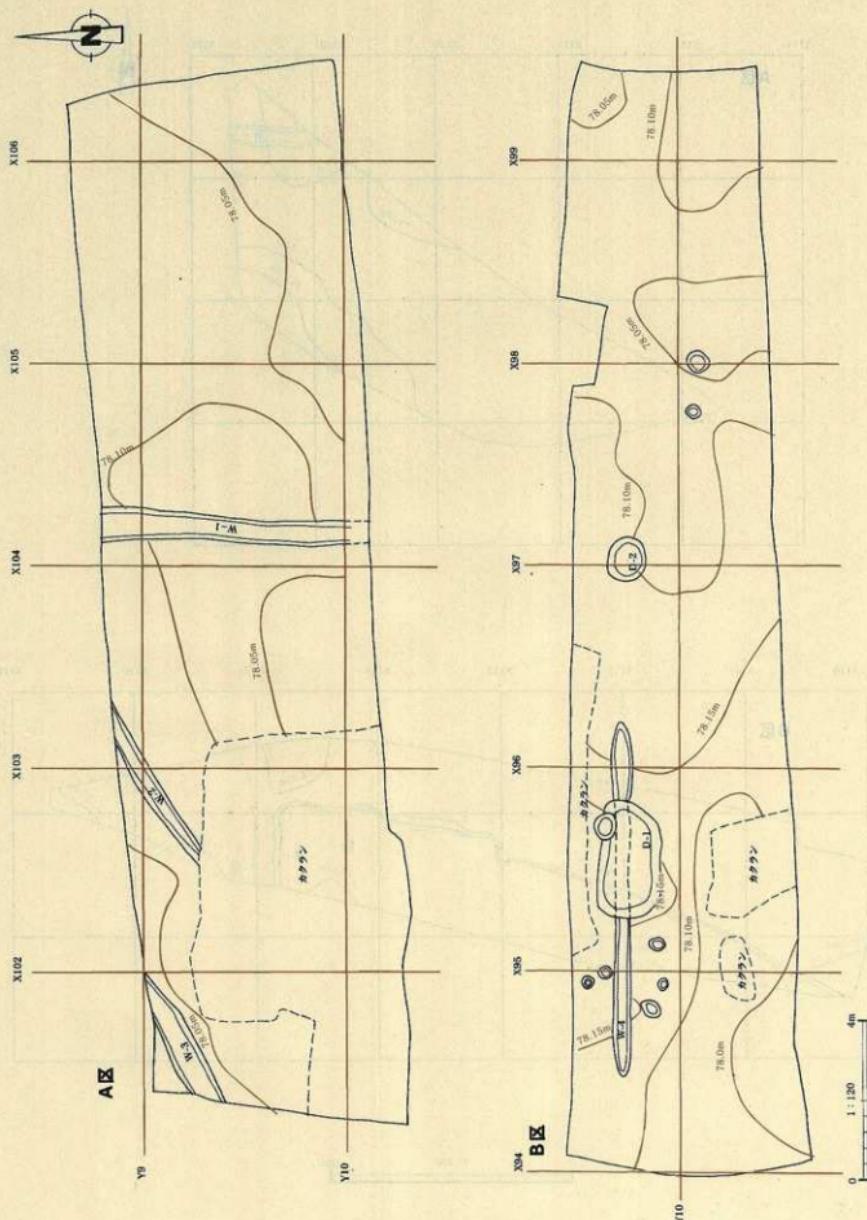


Fig. 5 村中II遺跡全体図

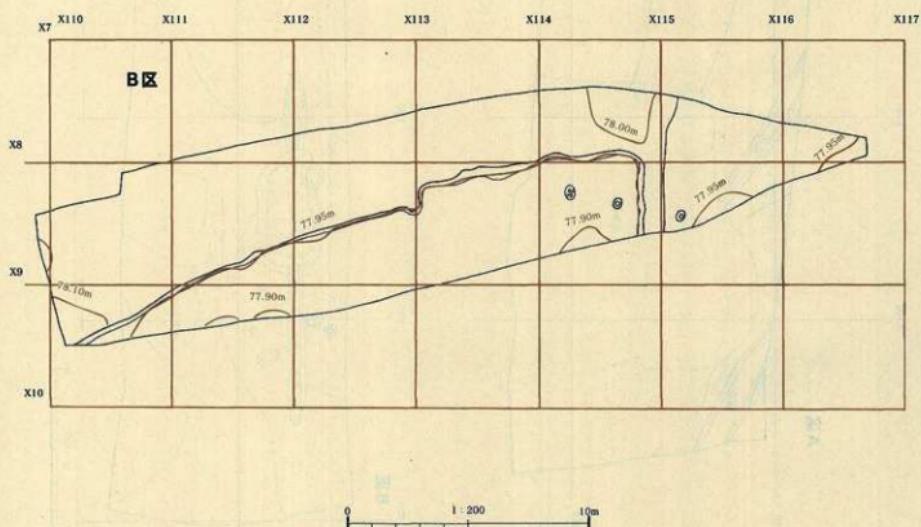
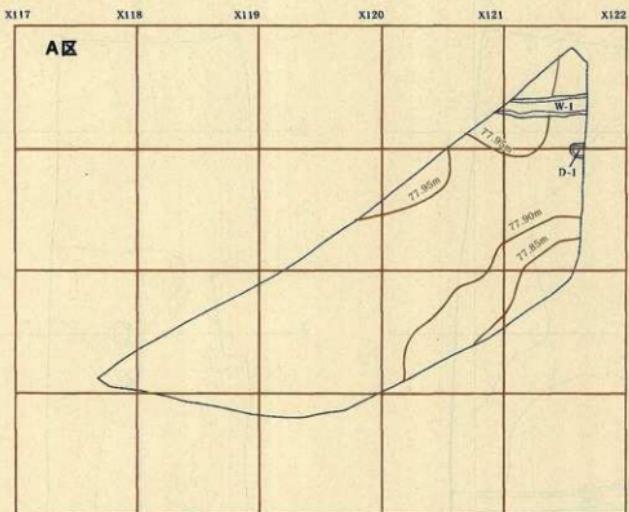


Fig. 6 西田V遺跡全体図

## IV 遺構と遺物

### 1 村中II遺跡

本遺跡から検出された遺構は、土坑2基、溝4条である。

#### (1) 土坑

D-1号土坑 (Fig. 8 PL. 1)

◎位置 X95、Y9グリッド

◎形状等 橢円形。長径280cm、短径150cm、深さ10cmを測る。

◎方位 N-88° -E

◎遺物 総数4点

D-2号土坑 (Fig. 8)

◎位置 X96~97、Y9グリッド

◎形状等 橢円形。長径108cm、短径93cm、深さ15cmを測る。

◎方位 N-2° -E

◎遺物 なし

#### (2) 溝

W-1号溝 (Fig. 8 PL. 1)

◎位置 X104、Y8~10グリッド

◎方位 N-3° -W

◎形状等 上幅56~88cm、下幅32~58cm、深さ3.5~7cm、長さ6.53mを測る。

◎遺物 なし

W-2号溝 (Fig. 8 PL. 1)

◎位置 X102~103、Y9~10グリッド

◎方位 N-60° -E

◎形状等 上幅35~50cm、下幅12~26cm、深さ15~17cm、長さ3.64mを測る。

◎遺物 なし

W-3号溝 (Fig. 8 PL. 1)

◎位置 X101、Y9グリッド

◎方位 N-68° -E

◎形状等 上幅66~74cm、下幅46~52cm、深さ12~20cm、長さ2.80mを測る。

◎遺物 なし

W-4号溝 (Fig. 8 PL. 1)

◎位置 X94~96、Y9グリッド

◎方位 N-88° -E

◎形状等 上幅33~45cm、下幅23~35cm、深さ4.5~9cm、長さ8.60mを測る。

◎遺物 総数4点

## 2 西田V遺跡

本遺跡から検出された遺構は、土坑1基、溝1条である。

### (1) 土坑

D-1号土坑 (Fig. 9 PL. 2)

◎位置 X121、Y3~4グリッド

◎形状等 半円形。長径60cm、短径55cm、深さ12~14cmを測る。

### (2) 溝

W-1号溝 (Fig. 9 PL. 2)

◎位置 X120~121、Y3グリッド

◎形状等 上幅62~82cm、下幅40~54cm、深さ10~12cm、長さ3.68mを測る。

◎方位 N-85° - E

## V まとめ

本遺跡周辺は北関東自動車道本線部分の発掘調査に加え、当遺跡同様に横手鶴光路線道路改良事業に伴う発掘調査と調査数が多い。検出された遺構としては、近世から古墳時代までの水田跡や集落跡幅広く、遺跡によっては縄文時代の遺物が出土しているところもある。

## 1 村中II遺跡

A区、B区ともにAs-B軽石の堆積層を一部で確認できたものの、畦畔は検出できなかった。両区ともに宅地として利用されており、その際の削平等で消失してしまった可能性は否定できない。近隣の遺跡に目を遣ると、平成11年度に調査済みで本遺跡の西に位置する横手湯田VI遺跡では、調査区西では畦畔が検出されているが、本遺跡に接する調査区東端では溝が検出されたのみで畦畔は確認できていない。さらに西の横手湯田III遺跡では、残存状況は悪いものの小畦畔が確認されている。このように近隣の遺跡において畦畔が検出されていること、また、本遺跡A区西でも耕作痕と思われる部分が検出されていることなどを考慮すると本遺跡で検出した遺構は平安時代の水田跡と思われる。

検出した遺構を見ると、まずA区では溝が3条確認できたのみであった。W-1号溝がA区中央を南北に、2号溝と3号溝は北東から南西方向に走る。いずれも暗褐色のAs-B軽石混土で埋まっており、いずれも小規模で、深さも浅い。W-2・3においては約15cmから20cm程度、W-1にあたっては約5cmから7cmと極めて浅い。これも後世の削平によるものかと思われる。

続いてB区であるが、本区もA区同様に後世の削平や掘削等による影響を受け、遺構の残存状態は良いとは言えない。検出した遺構は、溝1条と土坑2基のみである。W-4号溝については、深さが浅いところで約4cmと、削平によってその大部分が壊されてしまったと思われる。故に調査区内で確認できたのは溝の一部分で長さにして約9m程である。溝、土坑ともに出土遺物は無かった。ピットも數カ所確認できたが、用途は不明である。

## 2. 西田V遺跡

A区、B区でA s-B軽石2~3cmの堆積を確認できた。鋤耕によるA s-B軽石の除去を行いプラン確認を実施した結果、A区では耕作痕らしき痕跡が確認できたが畦畔はA区が狭長なこともあり検出できなかった。B区では、明確な畦畔は検出できなかったものの、僅かな段差でその痕跡を確認することができた。それにより水田面と思われる区画を想定するに至った。その他、ピットを3カ所検出し、柱間の長さもほぼ一様であることから、掘立柱建物跡かと思われたがそれ以上に柱穴が検出されず断定はできなかった。出土遺物についても両区において皆無であった。

最後に、今回調査した村中II遺跡・西田V遺跡とともに平安時代の水田跡が予想されたが、後世の削平等によって、明確な畦畔は全く検出できなかった。しかしながら、調査済みの周辺遺跡における水田跡検出状況、村中II遺跡では耕作痕が、西田V遺跡では畦畔の痕跡が確認できたように、水田の営みがあったと思われる。過去の調査実績から、本遺跡周辺は同様の水田跡や今回検出はできなかつたが集落跡が展開しているものと思われる。今後、さらに周辺遺跡を調査することで村中II遺跡・西田V遺跡との関わり合いが明らかにされることを期待するものである。

### (参考文献)

- |                 |        |                  |
|-----------------|--------|------------------|
| 「前橋市史」第1巻       | (1971) | 前橋市史編さん委員会       |
| 「群馬県史」通史編2      | (1991) | 群馬県史編さん室         |
| 「宮地中田遺跡」        | (1997) | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 「年報18」          | (1999) | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 「鶴光路線引遺跡」       | (1997) | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 「横手湯田II・西田II遺跡」 | (1998) | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 「西田III遺跡」       | (1999) | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 「西田IV遺跡」        | (1998) | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 德丸高堰II遺跡        |        |                  |
| 德丸仲田III遺跡       |        |                  |
| 西善尺司III遺跡       |        |                  |
| 下増田常木II遺跡       |        |                  |
| 下増田越渡IV遺跡       |        |                  |
| 横手湯田III遺跡       |        |                  |
| 德丸仲田II遺跡        |        |                  |
| 西善尺司II遺跡        |        |                  |
| 下増田越渡III遺跡      |        |                  |
- (1999) 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- (1998) 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

Tab.1 遺物観察表

番号	出土位置	器形	大きさ		胎土	焼成	色調	現存	器形の特徴・成形・調整技法	備考	Fig.
			口径	底径							
1	A区表探	内耳培塙	[34.8]	2.6	細粒	良好	橙	体部1/10	輪郭成形。平底で非常に高い器形。外表面削り後削で、スヌ付茎、内面更調整。内耳は新結で小さく下端は底に達する。		7
2	A区表探	内耳培塙	[36.8]	3.0	中粒	良好	にい赤褐	体部1/8	輪郭成形。平底で非常に高い器形。体部は器内6厚く、底削。内耳は小さく新結で下端は底に達する。		7
3	A区表探	漆炉	[22.8]	19.2	中粒	良好	褐灰	1/3	平底で後付けによる足が付く。外表面削り後削で、器円形と看わせる透孔あり。 参考：漆器道具の一様		7

注) 表の記載は、以下の基準で行った。

- ①胎土は、細粒(0.9以下)、中粒(1.0~1.9以下)、粗粒(2.0以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名を記載した。
- ②焼成は、極良、良好、不良の三段階。
- ③色調は、土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)に拠った。
- ④大きさの単位はcmであり、現存値を( )、復元値を[ ]で示した。

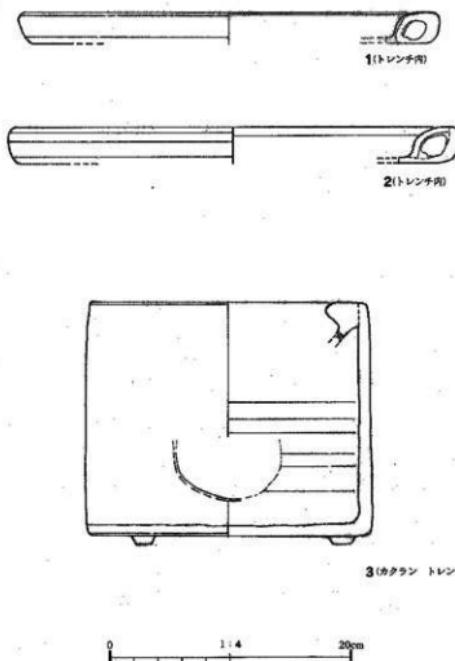
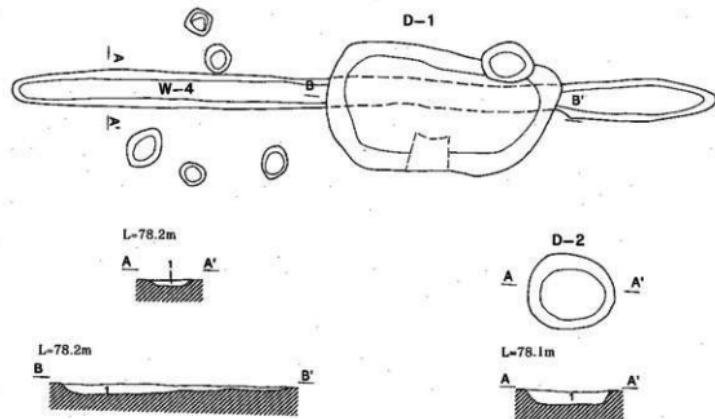
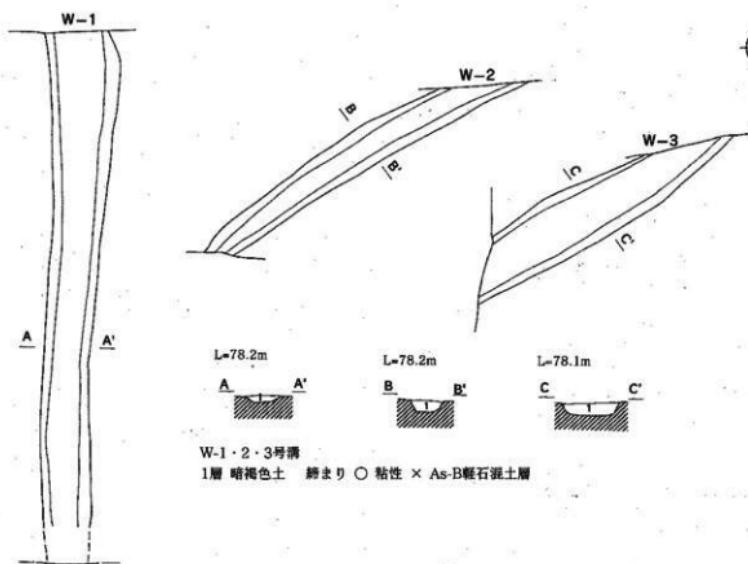
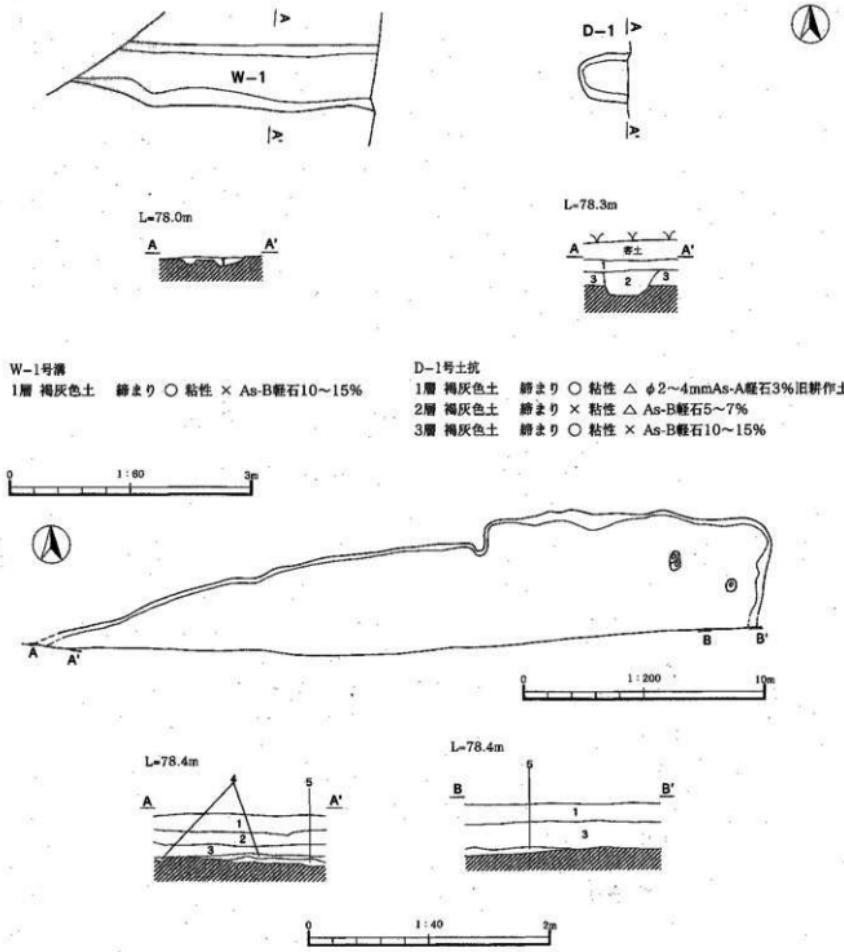


Fig.7 村中II遺跡遺物実測図



0 1:60 3m

Fig.8 村中Ⅱ遺跡遺構実測図



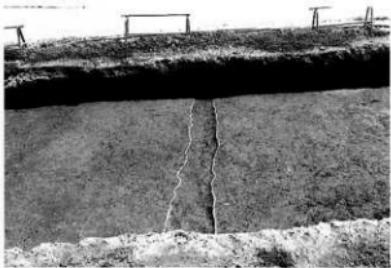
南壁セクション

1層 褐灰色土 繼まり ○ 粘性 ×  $\phi$  2mmAs-A鉱石15%  
2層 黒褐色土 繼まり ○ 粘性 △  
3層 黒褐色土 繼まり ○ 粘性 × As-B鉱石15%  
4層 黒色土 繼まり ○ 粘性 × As-B鉱石50%  
5層 暗灰黄色土 繼まり ○ 粘性 × As-B鉱石純層

Fig.9 西田V遺跡遺構実側図



村中Ⅱ A区全景（西より）



村中Ⅱ A区W-1全景（北より）



村中Ⅱ A区W-2全景（西より）



村中Ⅱ A区W-3全景（東より）



村中Ⅱ A区耕作痕（北より）



村中Ⅱ B区全景（東より）



村中Ⅱ B区W-4全景（西より）



村中Ⅱ B区D-1全景（北より）



西田V全景（東より）



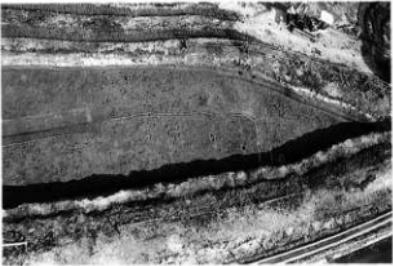
西田V A区全景（東より）



西田V A区全景（東より）



西田V A-EW-1・D-I全景（北より）



西田V B区東側畔（南より）

## 抄 録

フリガナ	ムラナカニイセキ・ニシダゴイセキ
書名	村中II遺跡・西田V遺跡
調査名	都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小峰篤
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2001年3月23日

所収遺跡名	所 在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市	町 村	遺跡番号	北 緯			
ムラナカニイセキ 村中II遺跡	マツハシタツノガタマツ 前橋市鶴光路町	10201	12G46	36°19'50"	139°05'58"	20000724 20001013	435m <sup>2</sup>	都市計画道路横 手鶴光路線道路 改良事業
ニシダゴイセキ 西田V遺跡	マツハシタツノガタマツ 前橋市鶴光路町	10201	12G47	36°19'51"	139°06'02"	20000724 20001013	1,037m <sup>2</sup>	都市計画道路横 手鶴光路線道路 改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
村中II遺跡	水田跡	平安時代	溝4条、土坑2基	内耳土器
特記事項				
西田V遺跡	水田跡	平安時代	溝1条、土坑1基	なし
特記事項				

### 村中II遺跡・西田V遺跡

平成13年3月20日 印刷  
平成13年3月23日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市三俣町二丁目10-2  
TEL 027-231-9531  
印 刷 上越印刷工業株式会社  
前橋市小神明町575-1  
TEL 027-234-2212(代)